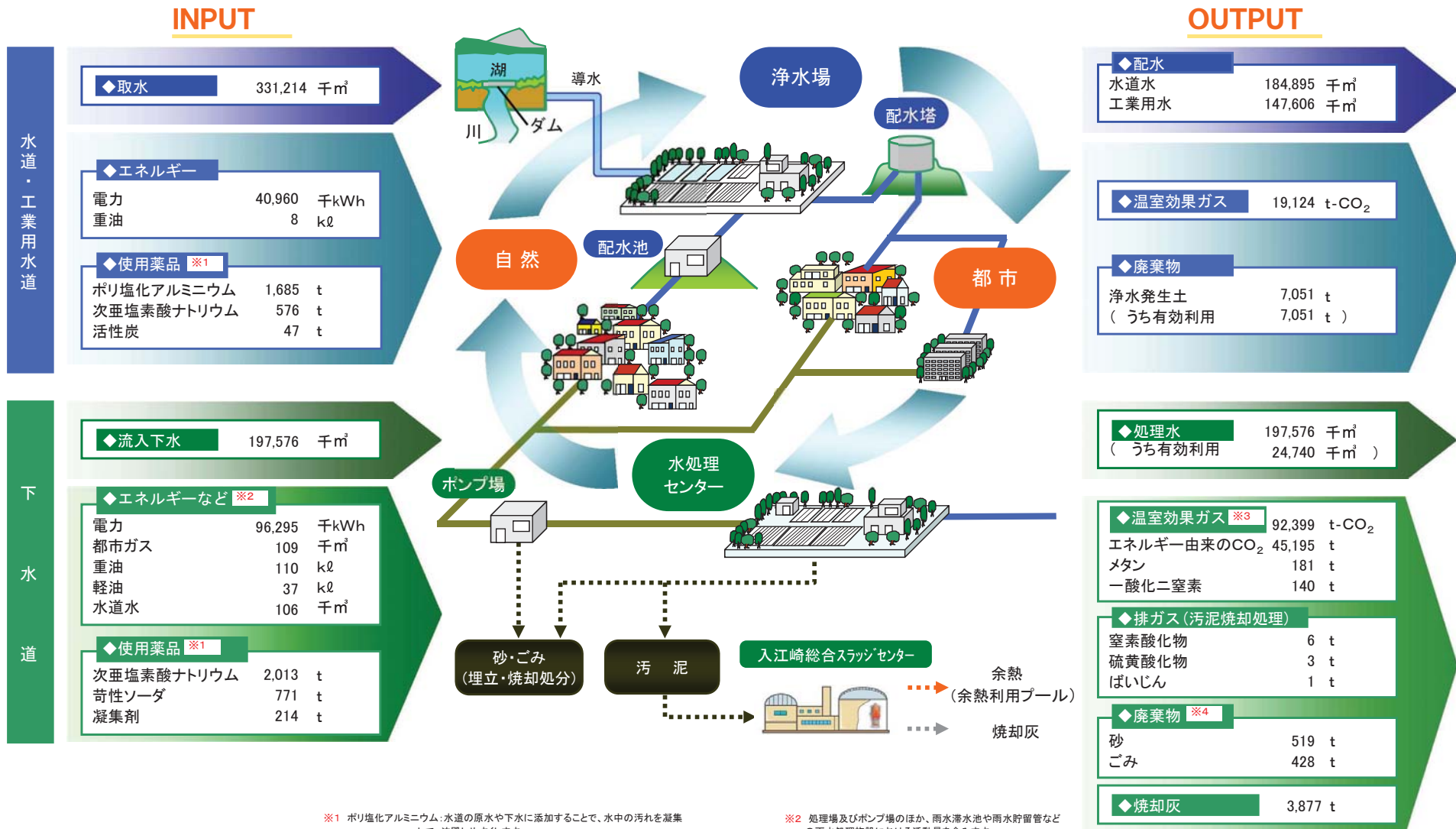


事業活動における物質フロー

相模湖や津久井湖などから取水した水は、浄水場において浄水処理され、配水管・給水管を通して、市民、企業の皆様へ届けています。
その後、家庭などから排出された汚水は、下水管を通

して水処理センターへ送られ、きれいな水に処理した後、川や海に放流しています。
この図は、上下水道局の事業全体における主な環境負荷の状況を示したものです。

上下水道事業は、自然からの恵みの水を、安全で安心な水道水として市民、企業の皆様に供給するとともに、私たちの日々の暮らしの中で生じた汚れた水を、きれいな水に戻して自然に返すという、「自然と都市における水循環システム」として、重要な役割を担っています。



※1 ポリ塩化アルミニウム：水道の原水や下水に添加することで、水中の汚れを凝集して、沈殿しやすくします。
次亜塩素酸ナトリウム：水道水や処理水の消毒殺菌に使用します。
活性炭：原水に臭気が発生した場合、臭気を取り除くために使用します。
苛性ソーダ：脱臭や焼却設備の排ガスの浄化などに使用します。
凝集剤：ポリ塩化アルミニウムのほか、汚泥を凝集し、効率よく濃縮・脱水するための高分子凝集剤やポリ硫酸第二鉄液などを使用します。

※2 処理場及びポンプ場のほか、雨水滞水池や雨水貯留管などの雨水処理施設における活動量を含みます。
※3 エネルギー由来のCO₂のほか、汚水や汚泥の処理により発生するメタン及び一酸化二窒素のCO₂換算値を含みます。
※4 ポンプ場や処理場に下水と一緒に流入してくる砂やビニール等のごみ